

【講演】

「包括的支援体制の整備と地区社協活動拠点」

講師：ノートルダム清心女子大学

人間生活学部 人間生活学科

准教授 中井 俊雄 氏

講師プロフィール

岡山県総社市社会福祉協議会で27年間勤務したのち、令和2年から現職。地域福祉実践の経験を基に、ひきこもり、福祉教育、ボランティア、コミュニティソーシャルワーク、地域共生社会をキーワードに研究。

また岡山県、広島県尾道市などの各福祉施策の委員・アドバイザーとしても活動しながら、研修や講演会の講師としても活躍。

～メモ～

# 令和7年度 地区社協活動拠点活性化支援事業研修会 「それ、ええね！」から一歩先へ

## 包括的支援体制の整備 と地区社協活動拠点



日時：令和7年12月23日（火）14:05～14:50

会場：広島市総合福祉センター 5階 ホール



ノートルダム清心女子大学  
人間生活学科 中井 俊雄

### 自己紹介



**所属** ノートルダム清心女子大学 人間生活学部 人間生活学科（社会福祉士養成課程）

**資格** 社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師・介護支援専門員など

**活動**

- ・静岡県地域共生のための包括的支援体制構築事業 アドバイザー
- ・岡山県福祉サービス第三者評価推進委員会 副委員長
- ・岡山県精神医療審査会 予備委員
- ・岡山県地区防災計画等作成推進協議会 アドバイザー
- ・岡山県版福祉教育ガイドブック作成検討会 委員長
- ・岡山県備北保健所新見支所「思春期の心の健康相談」相談員
- ・岡山県ボランティア・NPO活動支援センター 運営委員
- ・岡山県社会福祉士会 災害支援委員会 委員
- ・岡山市障害者総合支援審査会 委員 ・岡山市成年後見支援センター 運営委員
- ・岡山市社会福祉協議会総合事業委員会 委員長
- ・倉敷市高齢者・障がい者権利擁護支援運営委員会WG 委員長
- ・倉敷市社会福祉協議会 法人後見運営委員会 委員長
- ・津山市社会福祉協議会第7次地域福祉活動計画策定委員会 委員長
- ・玉野市成年後見制度利用促進審議会 委員
- ・瀬戸内市生活困窮者自立支援ネットワーク会議 アドバイザー
- ・尾道市おのまる会議（重層的支援体制整備事業）委員長
- ・尾道市ひきこもり支援ステーション みらいネット会議 委員長
- ・総社市ひきこもり支援等検討委員会 委員長 ・総社市生活困窮支援センター協議会 委員
- ・総社市権利擁護センター運営委員会 委員（支援検討委員会 委員長）
- ・総社市総社中央地区地域づくり協議会 副会長 など



**前職** 総社市社会福祉協議会（27年間勤務）

- ・事務局次長・障害者地域活動支援センター長・障がい者基幹相談支援センター長・障がい者千人雇用センター長
- ・権利擁護センター長・生活困窮支援センター長・ひきこもり支援センター長・災害ボランティアセンター副センター長

# シンパシーとエンパシー

## シンパシー

Sympathy = the **feeling** of being sorry for someone who is in a bad situation  
悪い状況にある人を気の毒に思う気持ち

- 同感。共感。（つらかったね。頑張ったね。）
- 相手への同情、相手の感情に同意すること。

## エンパシー

Empathy = the **ability** to understand other people's feelings and problems  
他人の気持ちや問題を理解する能力

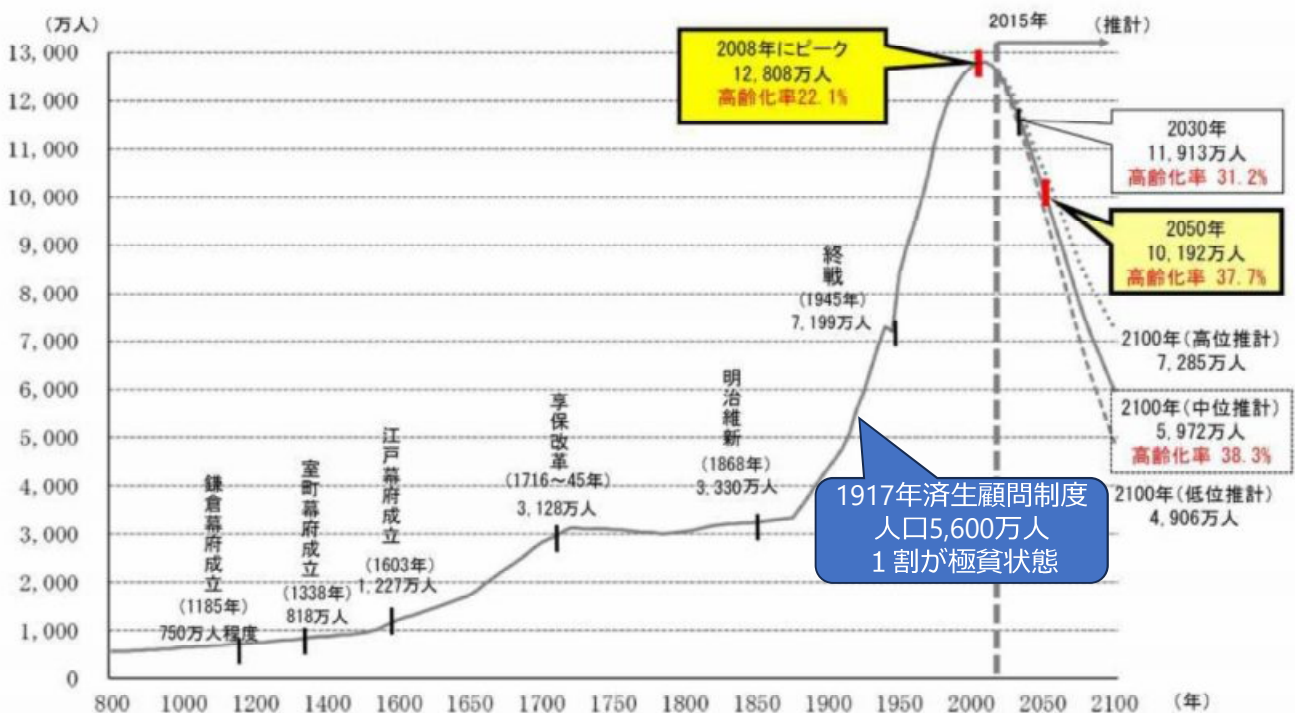
(ロングマン現代英英辞典)

- 人の気持ちを思いやる。
- 相手の立場に立って考える。
- 自分と**違う価値観**や理念、考え方を持つ人が、何を考えているのか、どう感じているのかを  
「**想像する力**」のこと。

共感  
(エンパシー)

# 日本の総人口は2050年には約 1 億人へ減少

○ 日本の総人口は、2008年をピークに減少傾向にあり、2050年には約1億人にまで減少する見込み。



(出典) 1920年までは、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)、1920年からは総務省「国勢調査」。なお、総人口のピーク(2008年)に係る確認には、総務省「人口推計年報」及び「平成17年及び22年国勢調査結果による補間補正人口」を用いた。2020年からは 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」を基に作成。

国土交通省「国土の長期展望」最終とりまとめ

# 単身世帯、高齢者単身世帯ともに、今後とも増加予想



(出典) 総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)〈令和6年推計〉」

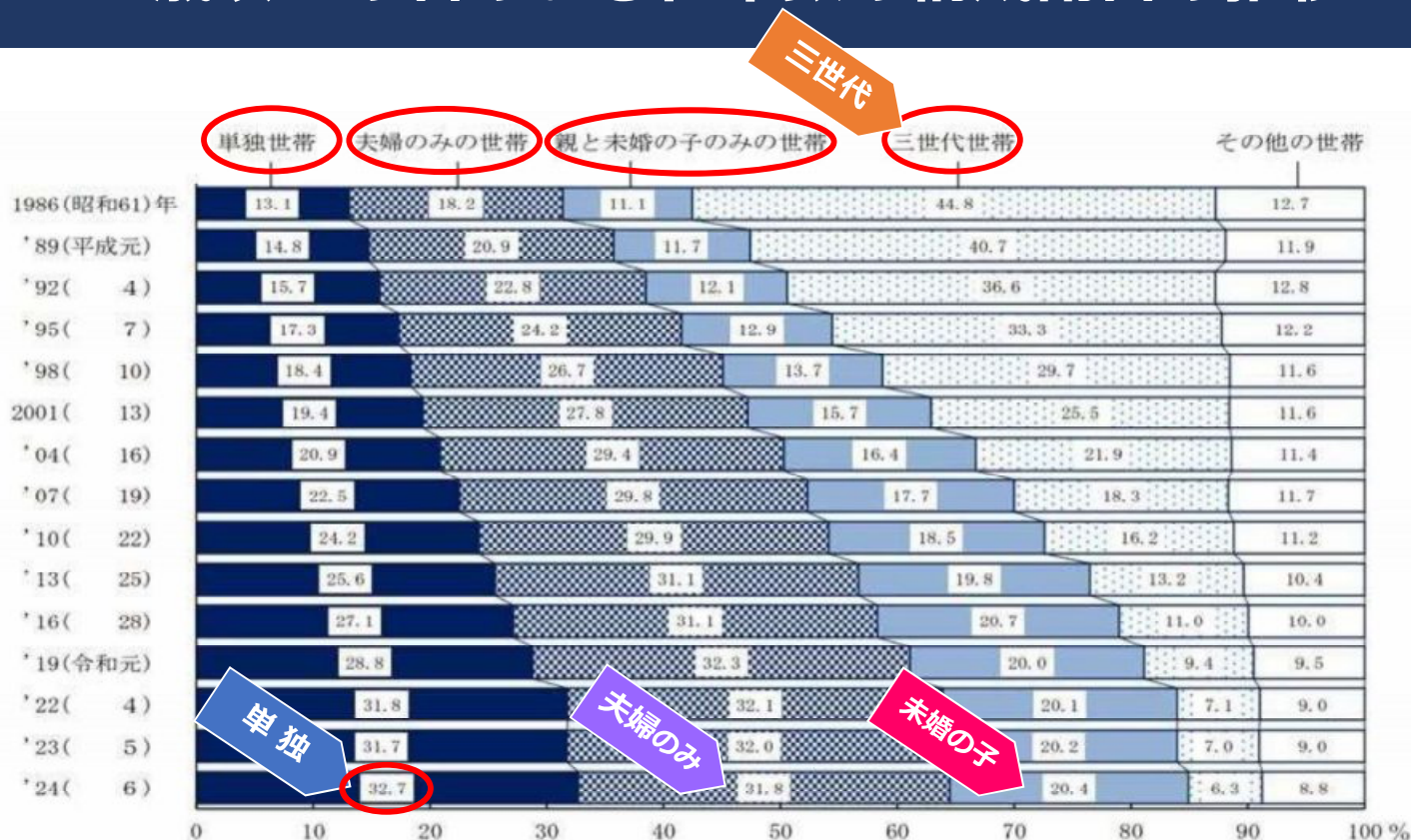
(※1) 世帯主が65歳以上の単身世帯を、高齢者単身世帯とする。

(※2) 全世帯数に対する高齢者単身世帯の割合はグラフのとおりだが、世帯主年齢65歳以上世帯に対する割合は、35.2% (2020年) から45.1% (2050年) へと上昇。

(※3) 子については、年齢にかかわらず、世帯主との続き柄が「子」である者を指す。

出典：厚生労働省

## 65歳以上の者のいる世帯数の構成割合の推移

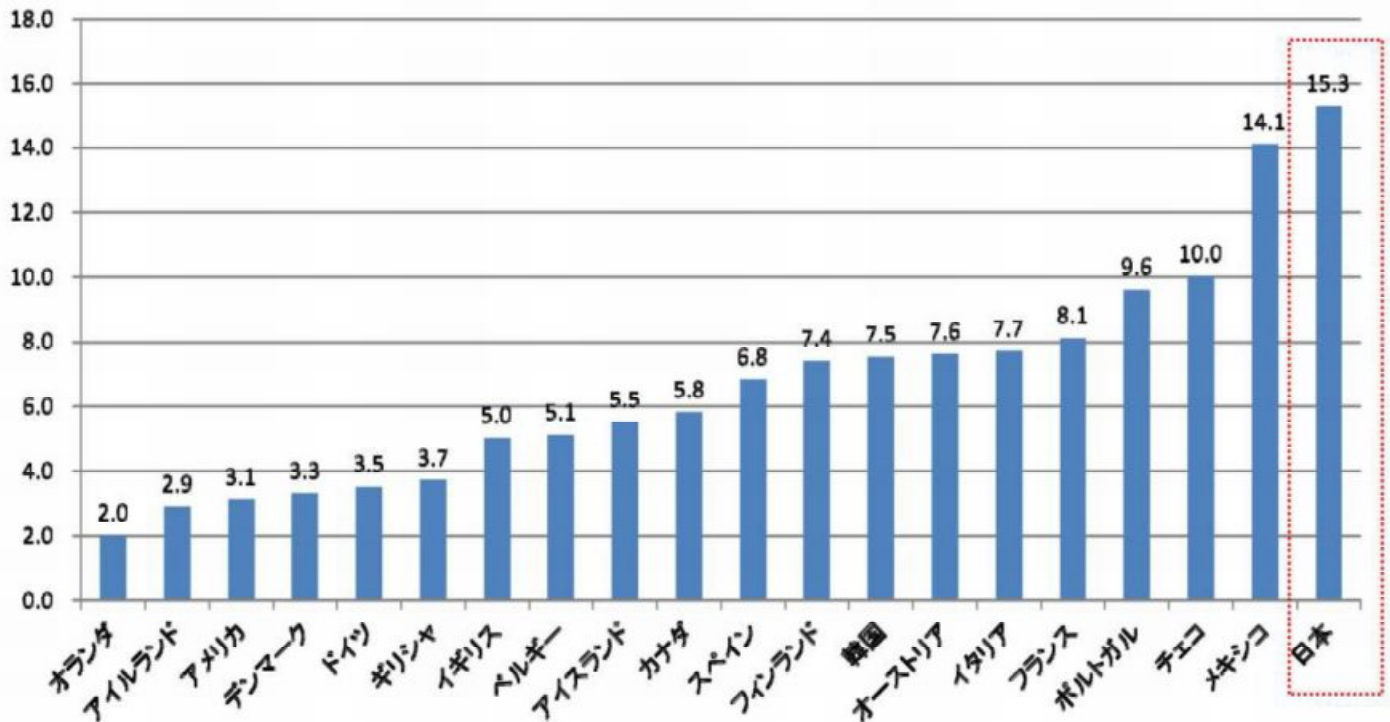


注：1) 1995 (平成7) 年の数値は、兵庫県を除いたものである。

2) 2016 (平成28) 年の数値は、熊本県を除いたものである。

3) 「親と未婚の子のみの世帯」とは、「夫婦と未婚の子のみの世帯」及び「ひとり親と未婚の子のみの世帯」をいう。

# 「家族以外の人」と交流のない人の割合



(注) 友人、職場の同僚、その他社会団体の人々(協会、スポーツクラブ、カルチャークラブなど)との交流が、「全くない」あるいは「ほとんどない」との交流が、「全くない」あるいは「ほとんどない」と回答した人の割合(合計)

(出典) OECD, Society at Glance: 2005 edition, 2005, p8

出典：厚生労働省

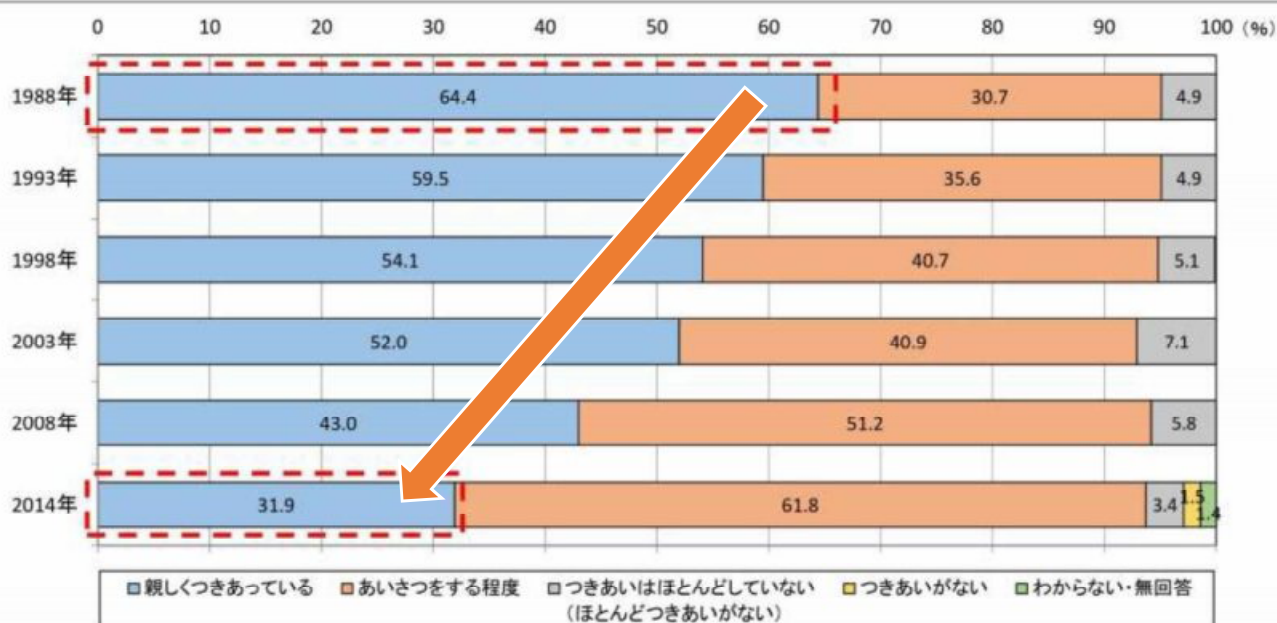
# 現在の地域での付き合いの程度



出典：令和6年度 社会意識に関する世論調査

# 高齢者の近隣とのつながりの状況

○ 60歳以上の男女を対象にした調査では、近所の人たちと「親しくつきあっている」としている者の割合は1988年から2014年で半減しており、高齢世代の地域のつながりも希薄化する傾向にあると考えられる。



(出典) 2008年以前: 内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」、2014年: 内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」

注1) 対象は60歳以上の男女

注2) それぞれの調査における選択肢は以下のとおり。

高齢者の地域社会への参加に関する意識調査: 「親しくつきあっている」、「あいさつをする程度」、「つきあいはほとんどしていない」

高齢者の日常生活に関する意識調査: 「親しくつきあっている」、「あいさつをする程度」、「ほとんどつきあいがいない」、「つきあいがいない」、「わからない」、「無回答」

## 孤立の状況

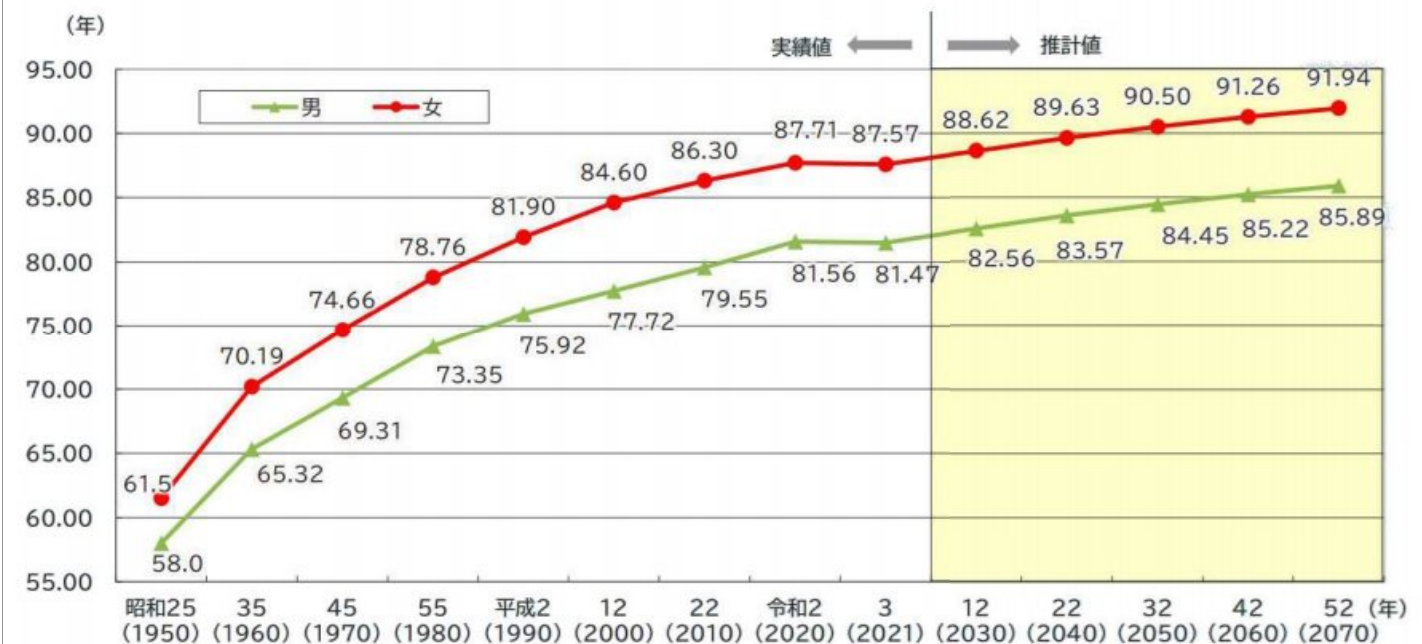
### ① 家族・友人等とのコミュニケーション頻度

■ 同居していない家族や友人たちと直接会って話すことが「全くない」と答えた人の割合は9.3%(図7)

【図7】同居していない家族や友人たちと直接会って話す頻度

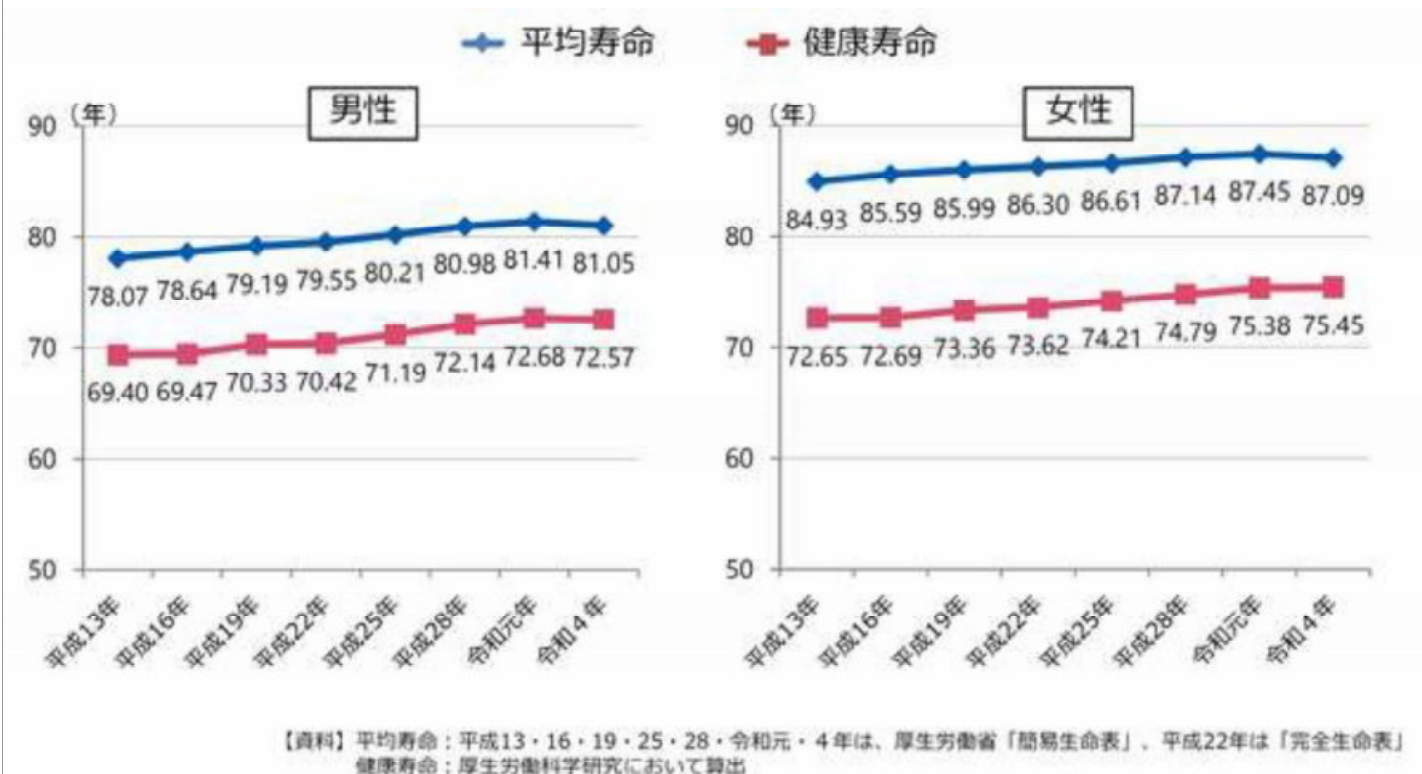


# 平均寿命は今後も緩やかに延伸



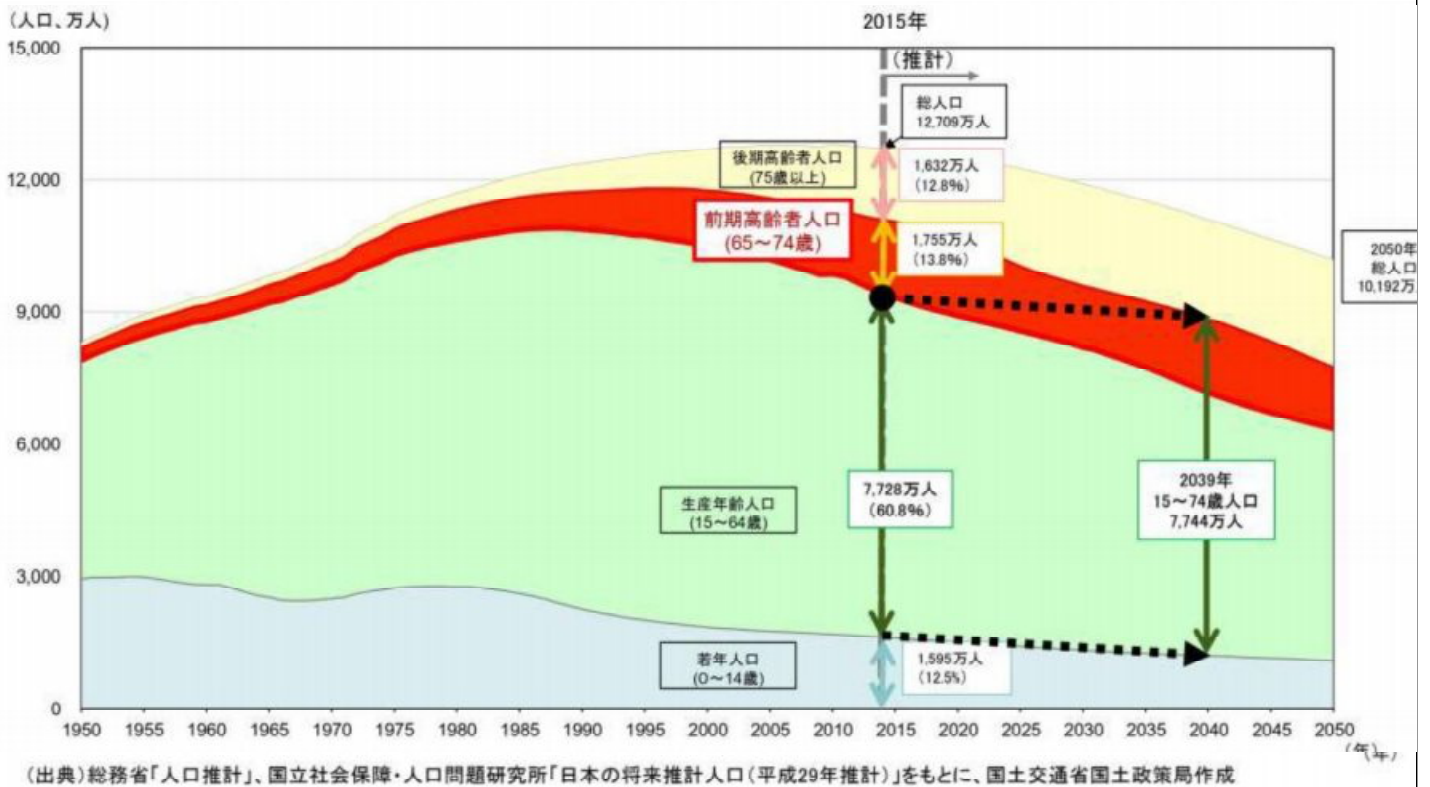
令和5年版高齢社会白書（内閣府）

## 平均寿命と健康寿命



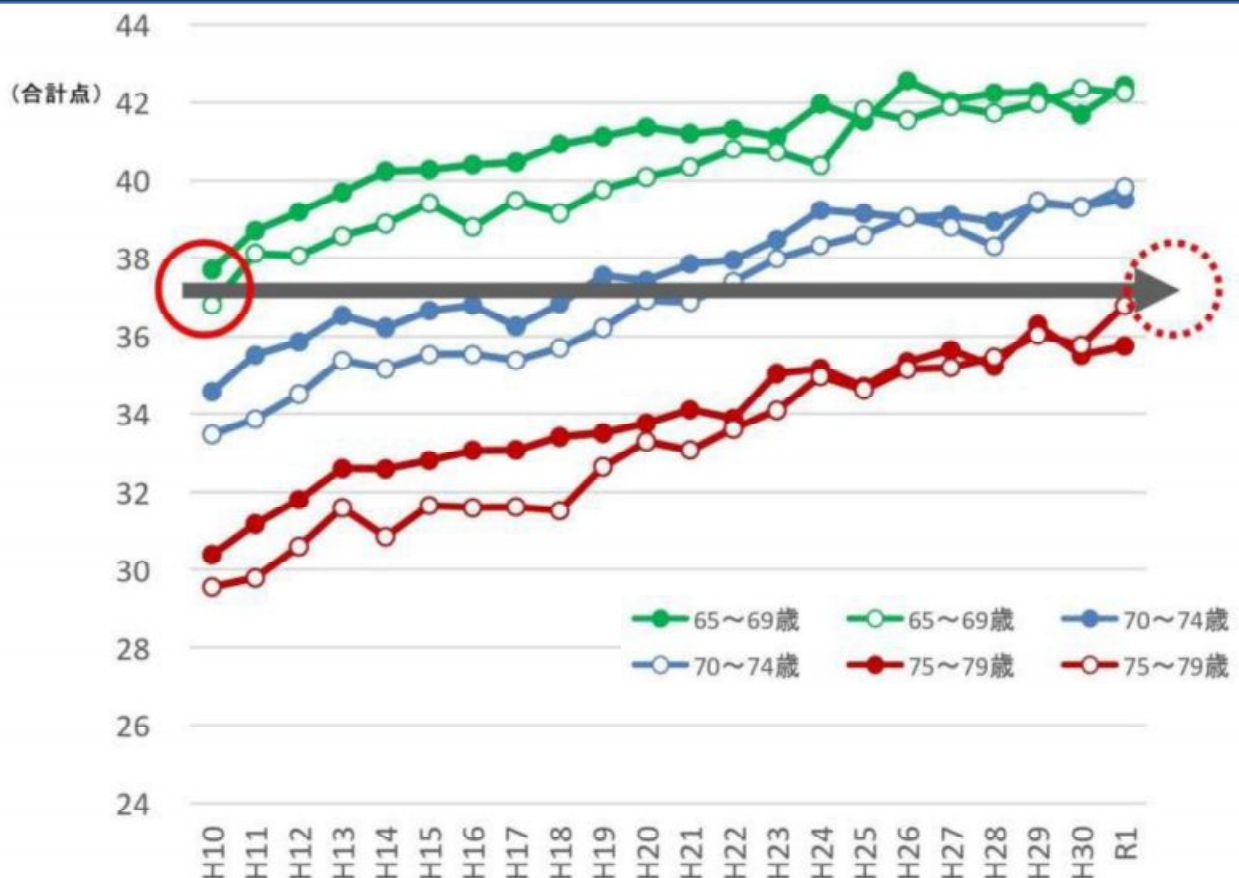
e-ヘルスネット（厚生労働省）

# 生産年齢人口・若年人口は減少する一方、高齢人口は増加



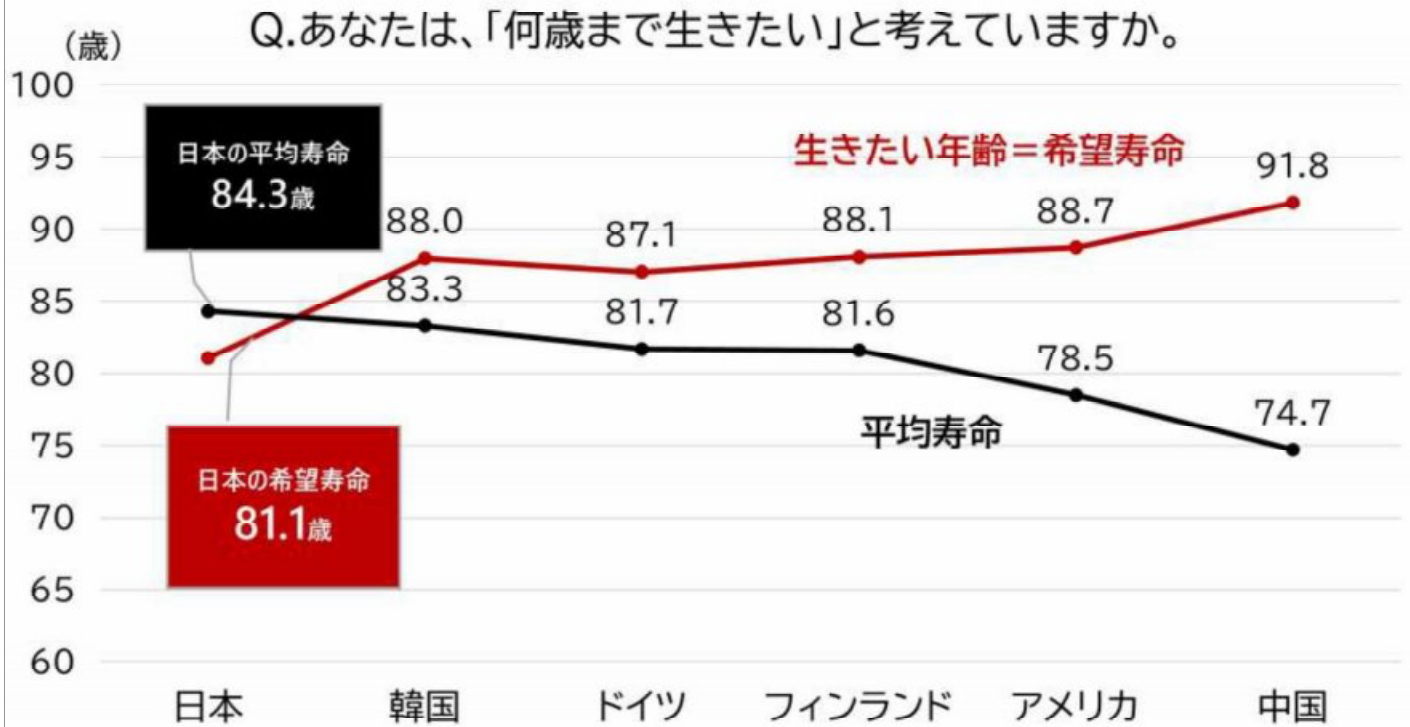
国土交通省「国土の長期展望」最終とりまとめ

## 高齢者の社会参画の可能性【新体力テスト合計点の年次推移】



国土交通省「国土の長期展望」最終とりまとめ

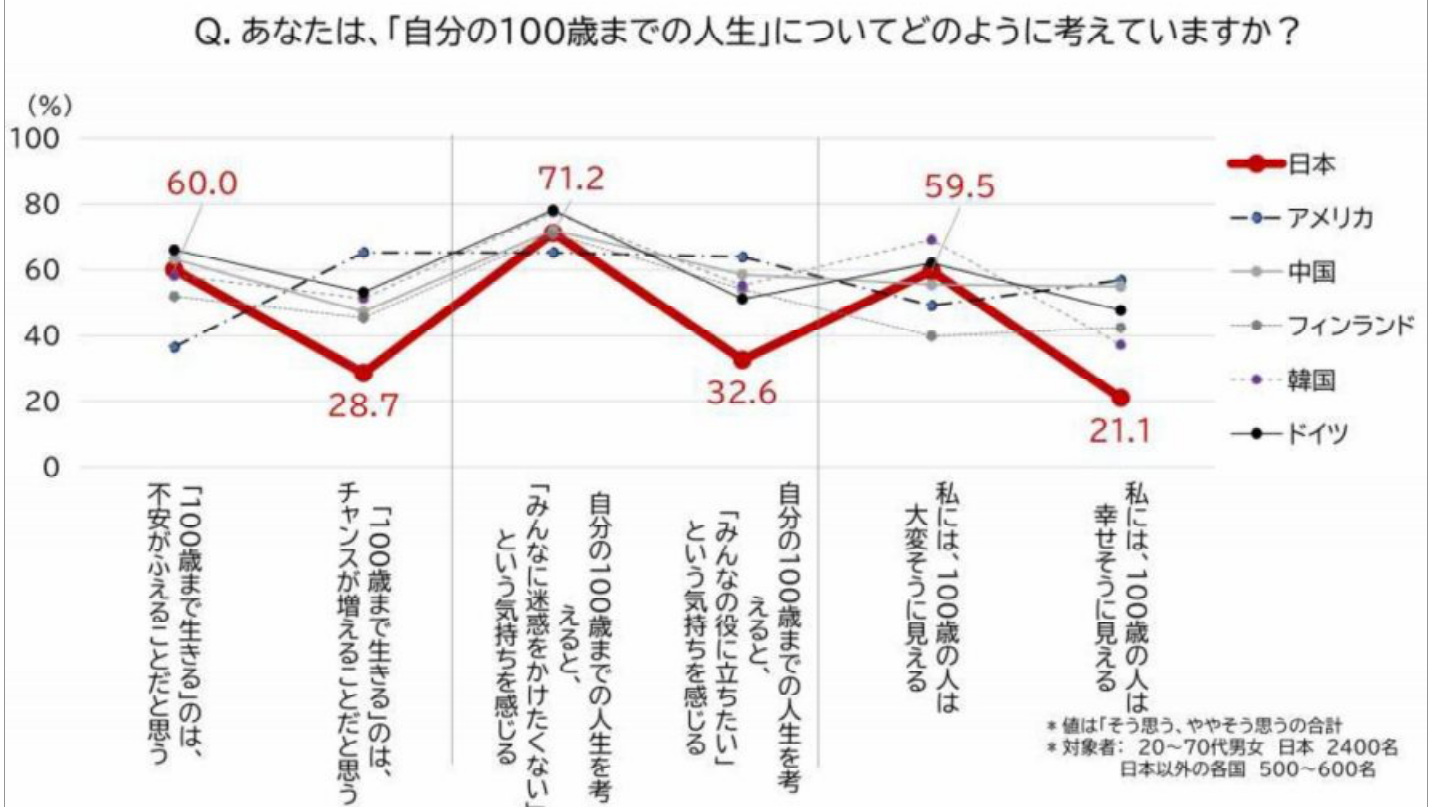
# 平均寿命と希望寿命



対象者：20～70代男女 日本 2400名、日本以外の各国 500～600名

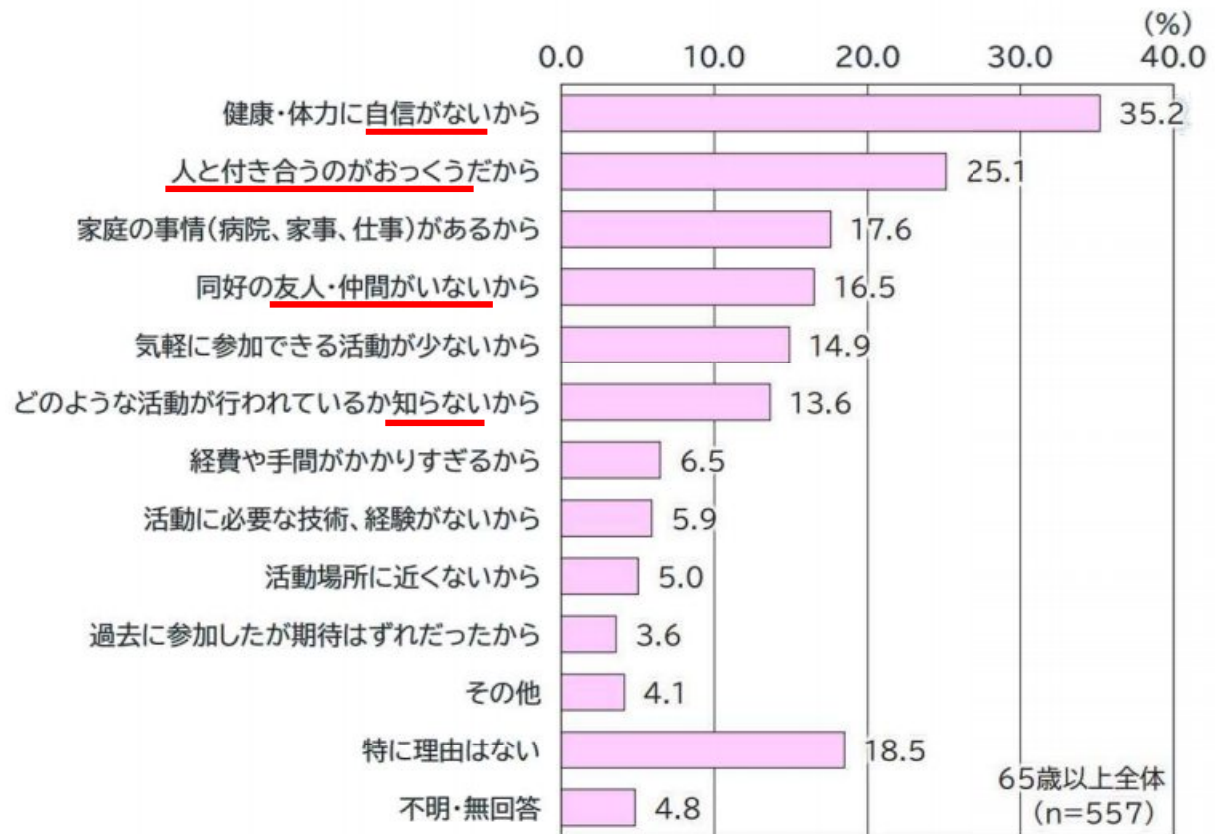
出典：株式会社博報堂「100年生活者研究所オンラインラボ」「100年生活者調査～2024年国際比較～」

# 人生の捉え方比較



出典：株式会社博報堂「100年生活者研究所オンラインラボ」「100年生活者調査～2024年国際比較～」

# 社会活動に参加したいと思わない理由

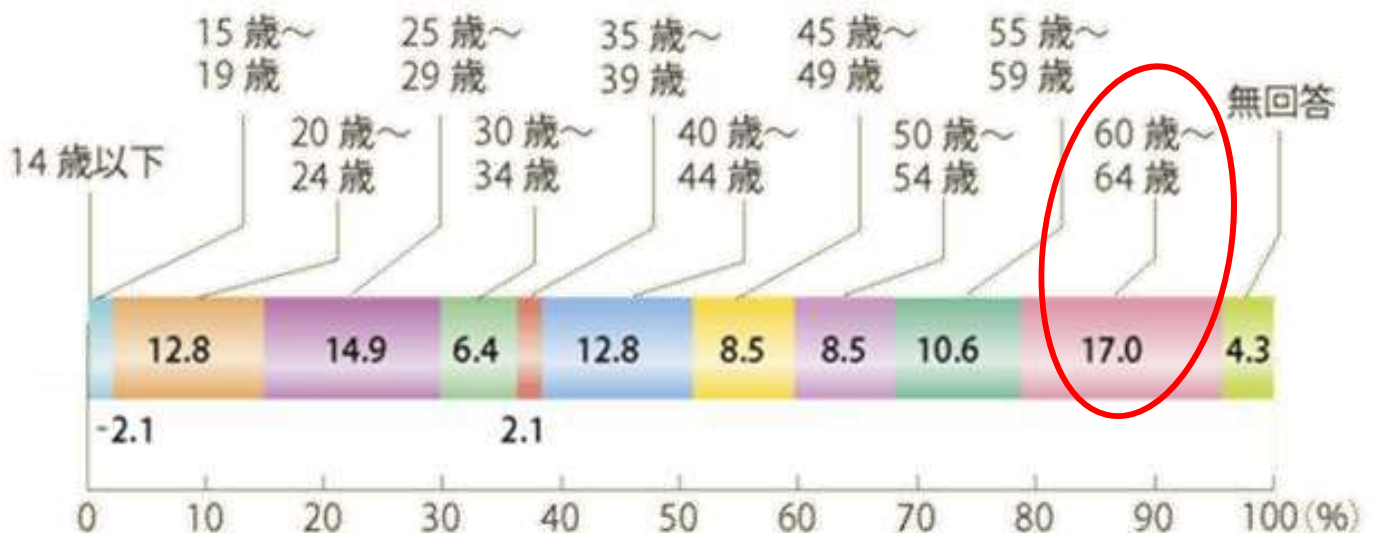


出典：令和5年版高齢社会白書

資料：内閣府「高齢者の日常生活・地域社会への参加に関する調査」（令和3年度）

## ひきこもりは特別なことではありません ひきこもりはいつからでも起こりうる現象

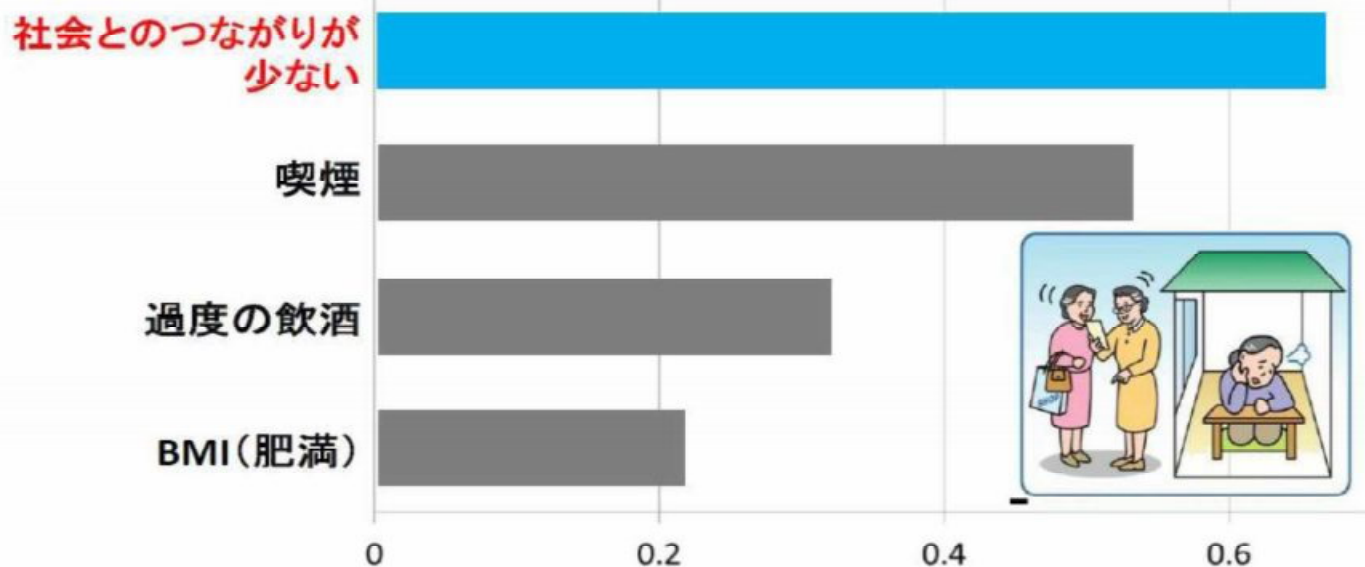
### 初めてひきこもりの状態になった年齢



内閣府（平成30年度 長期化するひきこもりの実態）調査

## 生活様式が死亡率に与える影響

社会とのつながり(近所付き合いや社会参加)を作っておくことが健康に重要



Holt-Lunstad J, Smith TB, Layton JB (2010) Social Relationships and Mortality Risk: A Meta-analytic Review. PLoS Med 7(7): e1000316. doi:10.1371/journal.pmed.1000316

## 地域共生社会の実現に向けて（前提の共有）

高齢化の中で人口減少が進行している日本では、福祉ニーズも多様化・複雑化しています。

人口減による担い手の不足や、**血縁、地縁、社縁**といったつながりが**弱まって**いる現状を踏まえ、**人と人、人と社会がつながり支え合う取組**が生まれやすいような環境を整える新たなアプローチが求められています。

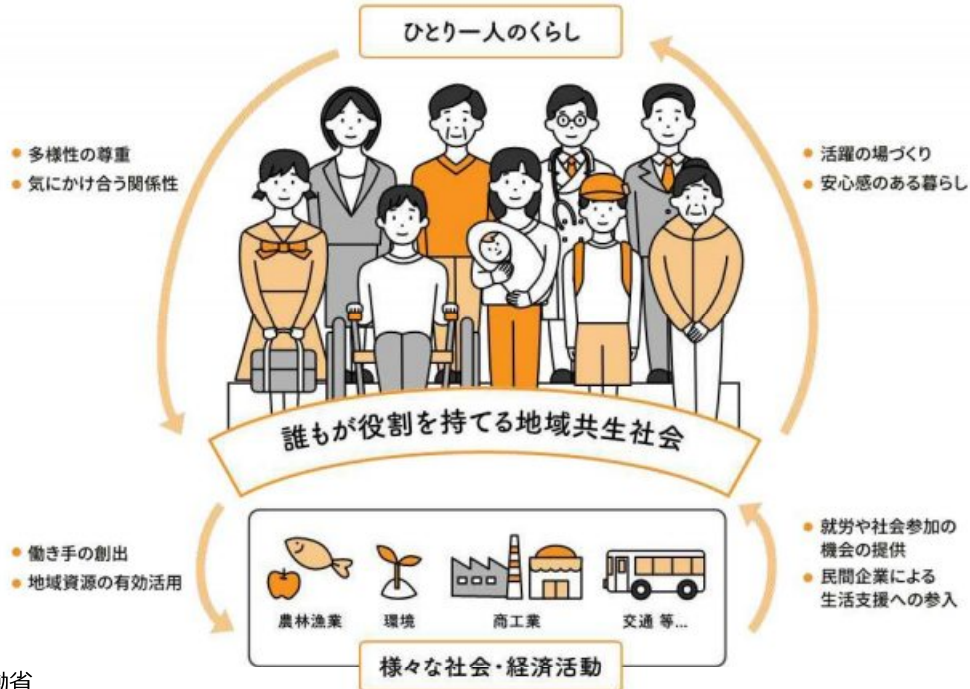
人と人とのつながりそのものがセーフティネット



出典：厚生労働省

# 地域共生社会とは

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつなぐことで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を指しています。



出典：厚生労働省

## 「助けて」もらおう Vs 「助けて」あげる

- 誰かに『**ありがとう**』と言われたのは、最近いつでしょうか？
- 反対に、誰かに『**助けて**』と言ったのは、いつだったでしょうか？
- 困ったことがあったら『**助けて**』って言ってね！  
って言っていませんか？
- 『**助けを求める**』側と『**助ける**』側どちらが発信しやすいですか？
- どちらがパワーレスな状態でしょうか？
- 『**助けて**』の発信を強いていませんか？
- むしろ『**助ける**』側がパワーをもらう側！！

共感  
(エンパシー)

# 年間3000トンの食品を救う「涙目シール」 「第34回 食品安全安心・環境貢献賞」を受賞！

あなたと、コンビニに、  
**FamilyMart**



人のため

私のため

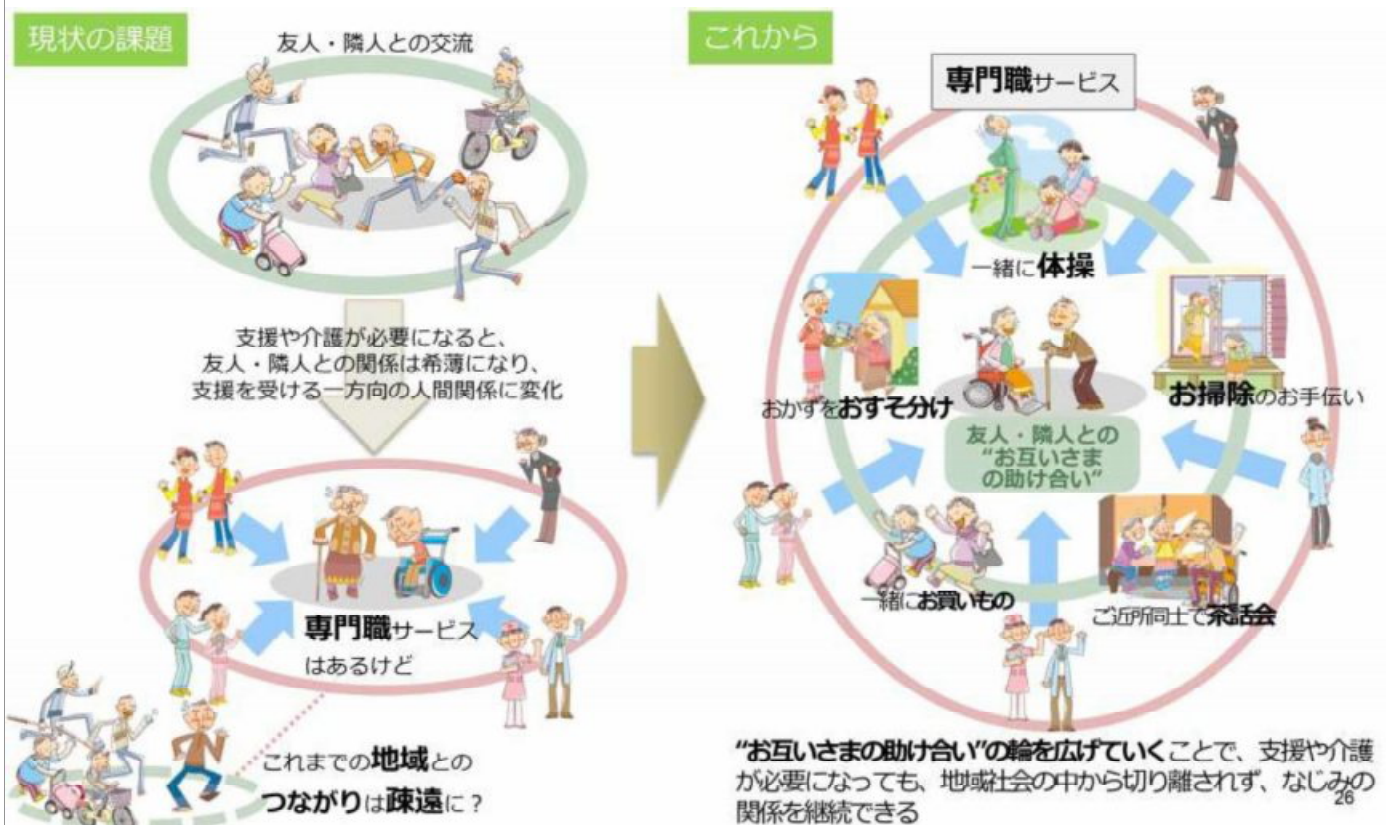
値引きシール 半額 とは  
何が？ どこが違うのか？



株式会社ファミリーマート（本社：東京都港区、代表取締役社長：細見研介）は、「第34回 食品安全安心・環境貢献賞」（主催：日本食糧新聞社、後援：農林水産省・環境省）を受賞しました。このたびの受賞は、当社が掲げる5つのキーワードの1つ「食の安全・安心、地球にもやさしい」を具現化する食品ロス削減の取り組み「涙目シール」が、「消費者の共感を軸とした食品ロス削減への挑戦」として高く評価されたものです。

出典：ファミリーマートホームページより

## 地域生活は専門職だけでは支えられない



# 地域の支え合う力の低下

共感  
(エンパシー)

「高齢者が高い所にある電球を交換できない」といったちょっとした困りごとは、これまでも存在しており**住民同士の助け合い**の中で解消されてきていたのが従来の地域社会でした。しかしながら、現状は**人と人のつながりが減り、お互いの困りごとに気づくこと自体が少なく**なっています。

また、具体的に「できないこと」をサポートすること以外にも「仕事の人間関係の悩み」などについて、**身の回りに相談できる人がおらず、小さな悩みが積もりに積もって体調を崩して**しまい「ひきこもり」状態になってしまうといった状況も発生しています。このような場合には、**ちょっと愚痴を話したり、悩みを話すことができる存在**がいて、**話すだけで気持ちが安らぎ、問題が大きくなる前に適切な対応やサポートにつながれる**といったこともあり得ます。しかしながら、人と人のつながりが減ったことでそういった存在を地域の中で作ること自体が難しくなっています。

三菱UFJリサーチ&コンサルティング「地域づくり推進のための手引き」

## 地区社協で展開される地域づくり（イメージ）

「一人暮らしの高齢者や障害を持った人など誰でも気軽に集える場が身近にはない」と気づき「地域の居場所」の創出につながった

拠点で、高齢者や障害分野の情報についても耳にし、イベントなどを手伝う機会があり、様々な人々と触れ合う中で、地域の状況が気になり始めた…

地域における既存の拠点と連携しながら、誰もが参加できる地域の居場所づくりを開始



地区社協

何か、私たちに出来ることはないかしら？

一人の気づきから、それに共感した住民同士のつながりが強化され、住民が主体となった分野横断的な取り組みが創出

## 地区社協活動拠点の意義・役割

- 拠点とは単なる活動の「場」ではなく、住民や関係者が集い、**関係を結び、地域生活課題に向き合う**ための物理的・社会的な「**拠りどころ**」
- 「拠りどころ」とは、人が安心したり、判断したり、行動したりする際の“**頼りにする基盤・支え**”のこと
  - 住民同士・住民と専門職をつなぐ
  - 顔の見える関係の回復
  - 「知り合い」「気にかける」関係の生成
  - 心の支え・安心感・自己肯定感・信頼関係の構築
  - 相談に至らない困難の把握・問題の早期発見
  - 支援-被支援の非対称性を緩める空間（役割の創出）
  - 個別支援と地域づくりの接点 など

## 地域活動における個人情報保護問題

- 住民は、行政施策や地域福祉活動・地域防災活動に対する個人情報提供には厳しい...（民間企業のカードやポイント会員になるのに...）
  - 人間関係・信頼関係が未形成（信じられない）
  - 目に見える特典や見返り（メリット、効果、お得感）がない
- プライバシーかどうかは「一般社会の規範」に基づいて決まるのではなく、「住民自身」が決めること（**関係性**や感性により一人ひとり受け取り方、感じ方は違う）
- 秘密を守ることが目的ではなく、「**秘密を守ることができる人である**」という**信頼**を得ることが重要（取扱場面云々でなく**信頼獲得**が大切）
- 地域活動における**個人情報保護問題**は、「形式的・手続的に法令遵守をしていれば良い」「同意書をもらっておけば良い」ではなく、**信頼**を損なわないよう、**想像力**を働かせ**配慮**し、**声かけ**や**説明**、**関係形成**ができるかという、センスや**関わり方の問題**
- 顔の見える**信頼関係**が大切



# 「見守る」とは…

- 「見守る」と「監視」との違いは**信頼の有無**
- まず「今日の姿」をみる（**観察**する）
- 「見（**観察**し）て」「**守る**」
- 観察するとは、**変化**に気づくこと
- 「守る」とは、「肌⇒手⇒目⇒心」をあわせて、（どこまで**任せられるか**）、（その都度）判断して行動すること（「口」はありません…）
- 相手への**信頼**の度合いが大切です！

共感  
(エンパシー)

## 洋服屋で・・・

お客「（お願いだから私に構わないで...）」

店員「いらっしゃいませ！」

お客「・・・・（どうしよう...困った💧）」

店員「ゆっくりご覧ください...（その場から離れる）」

お客「（接客されなくてよかった...）」

店員「（気配は消して、必要な時にすぐ行ける**距離感**で...）」

共感  
(エンパシー)



初めて洋服を買いに立ち寄った場所（服屋）では、声をかけてほしくありませんよね  
初めて行く居場所ではどうでしょうか？

# お客様化社会から市民が主役の社会へ

今の社会の**危機**は、市民の**顧客意識**が強くなり「**お客様化社会**」になってしまっていることです。本来市民は、お互いに支え合いながら自分たちで社会の課題を解決し、社会をつくっていくものです。それが**市民社会**であり、そこを**支えるのが地域福祉活動**なのですが、現在は「地域福祉サービス」という面だけでとらえられ、地域住民はその**サービスの顧客**になってしまいがちです。地域住民どうして話し合いながら活動して地域をよくしていくことは、**仲間**も増え、創造的な活動で**達成感**を得られると、とても**楽しくおもしろい**ことだと私は思うのですが、その点が伝わっていないのです。

早瀬昇「特集 市町村社協を知るーともに地域を支えるために」月間福祉2023年8月号p.24から



fin

